## 資料５　３学級規模の専門高校等に対する考え方

１　「県立高等学校再編整備第一次実施計画における専門高校等の再編計画について」より３学級規模の専門高校に対する考え方（平成１７年２月）

○　望ましい規模である１学年４学級規模に比べると、３学級規模は教員数や生徒数の少なさなどによる様々な課題がある。

○　したがって、３学級規模の学校は、基本的には、あくまでも適正規模の４～８学級を目指すものとし、再編の対象となる。

○　しかしながら、３学級規模を、当面、維持できる見込みの学校であって、生徒・保護者のニーズを踏まえながら、取組を重点化するなどの工夫により、その学校目標については、適正規模の学校と概ね同等の教育効果が期待される場合については、単独校としての存続を含めて検討するものとする。

○　なお、近隣の二つの学校がともに３学級となる場合は、小規模校の課題を解消するとともに、当該地域の教育力を維持向上させるため、基本的に両校を再編統合して規模の適正化を図るものとする。

２　平成２２年度３学級規模の専門高校等の検証結果（平成２３年５月）

○　小規模校では、生徒数が少ないため、生徒一人ひとりに目が届き、進路指導等について、きめ細かに指導することが可能になるなどメリットもあるが、生徒数・教職員数ともに少ないため、校務運営や授業展開、部活動、学校行事などの教育活動において、次のような課題がある。

・　校務分掌や委員会の兼務が多い。

・　受験指導や就職指導において、職員の配置が少ない教科（専門高校の場合はほとんどの普通教科）の習熟度別指導などが十分できない。

・　部活動では、部員及び部活動予算の確保並びに顧問の配置などが難しくなっている。

・　小規模校であっても学校行事の数は大規模校と差がないため、運営に係る負担が大きくなる。

○　しかしながら、平成２２年度も、平成２１年度に続き、各学校がその特色を生かすため、様々に工夫して取り組んでいることが報告され、他校にも参考になる事例が示された。特に学級減が進行中の学校においては、年々減少する生徒数、職員数に対して様々な対応が検討されている。

（中略）

○　以上のように、今回の検証においても、小規模校による課題のため、学校を単独で維持することが困難であるような状況は見られなかった。

○　今後もこの検証を継続することで、各校の課題を整理し、その対応などの情報を共有、活用することで、学校の更なる活性化に向けた取組を推進する契機とすることができる。

※　「県立高等学校再編整備第一次実施計画における専門高校等の再編計画について」より２学級規模の考察（平成１７年２月）

○　学習指導上の課題

選択教科・科目の設定や少人数指導等ができにくく、多様化する進路希望の達成や資格取得に向けた指導等も困難となりがちである。例えば、普通教科担当者が１名程度しかいない状況になるなど教科担当者の数が少ないため、生徒の興味・関心及び進路等に応じた多様な選択科目の設定や習熟度別授業なども実施が難しい。

○　学校の活力、活性化を図る上での課題

生徒数が少ないなめ、学校の学習活動や諸行事等において、生徒同士の触れ合いや切磋琢磨の機会が減少し、また、小規模のため盛り上がりにくい。

○　学校運営上の課題

校務分掌や各種委員会等、一人で何役も担当せざるを得ず出張等の頻度も高く、生徒を指導するにも余裕のない状況になりがちである。時間割の変更等も極めて困難となり、突発的な事態等への対応もできにくい。

○　部活動上の課題

部活動の種類、部員の数ともに少なくなり、多彩な部活動の展開を期待できない。

【２学級規模の評価】

限られた教職員、生徒数のため、学校全般の活力不足となり、効果的な教育の実施が期待できない。